

**308** 虚血性心疾患病態評価において心電図では評価困難でTl-201心筋像が有用であった症例

田中 健, 稲垣弥寿子, 中村嘉孝, 若林研司,  
丸山浩一, 蛭名勝仁, 伊藤正光(都立豊島病院)

飯尾正宏(東京大学, 放射線科)

心電図, Tl-201心筋像は虚血性心疾患評価に有用な役を果たしている。前者は時々刻々の電気現象の評価, 後者は血流分布の時間的平均像の評価と全く異質なものを評価しているため, 両者を用いて始めて虚血性心疾患の病態が一層詳細に解明されるものと考えられる。今回5症例において心電図よりもTl-201心筋像が有用な役を果たしたと考えられたので報告する。

1例では著明な狭心症発作の1日後, 既におちついた状態での安静時像で前壁領域の欠損を認めたが, 心電図には対応するQ波はみられなかった。更に2日後にはこの欠損が消失した。この間に行われたカテーテル所見よりこれは副血行路の発育に対応すると推定された。虚血発作時の病態評価にTl-201心筋像は有用と考えられる。4例では運動負荷時, II, III, aV<sub>F</sub>, V<sub>4</sub>-。で明確なST低下がみられたがTl-201心筋像の欠損は一枚領域のみの欠損であった。ST低下部位から虚血部位の推定は一般的に困難なので虚血発作に対する責任冠動脈検出にTl-201心筋像は心電図にない有用性を示すと考えられた。

**309** 狭心症及び心筋梗塞の診断精度に対する心電図と心筋シンチグラム(Planar及びSPECT)の再検討

鍋山庄蔵, 青木真, 山本雄祐, 芦原俊昭, 緒方行男,  
稲生哲治, 福山尚哉(松山赤十字病院 循環器科)

虚血性心臓病を疑われ入院した患者のうち冠動脈造影(CAG)を施行した136例で, 心電図及び心筋シンチによる冠動脈病変診断のSensitivity(SE)とSpecificity(SP)とを比較検討した。正常50例, 狭心症41例, 心筋梗塞45例について, CAG所見に対する心電図, Planar法・SPECT法のSE・SPを比較した。心筋梗塞群では, SEはそれぞれ88, 95, 98%, SPは89, 80, 59%であった。一方, 狭心症群では, SEはそれぞれ78, 61, 81%, SPは80, 100, 91%であった。<考案>心筋梗塞群ではSEは各法とも高かったのに比し, SPはSPECT法で低値であった。これは後下壁の過診断が原因と考えられた。一方, 狭心症群でのSEは心筋梗塞群に比しかなり低い, これは心筋梗塞の合併例や軽度の冠動脈病変(50~75%狭窄)にfalse negativeがかなり多いためと考える。

**310** 心筋SPECTによる右室負荷疾患における<sup>201</sup>Tl右室壁集積の定量的評価

国枝悦夫 尾川浩一 西口郁 熊谷英夫 久保敦司  
桜田潤二 橋本省三 (慶大 放)  
岩永史郎 半田俊之介 (慶大 内)

右室負荷疾患における<sup>201</sup>Tlの右室壁への集積が右室負荷の程度をよく表していることは以前に我々が報告し, 既にいくつかの報告でplanar像での定量性に付いての検討が加えられている。SPECTはplanar像と比較してRI集積分布の定量的評価に関しては原理的には優れているものと思われるが, 現実には吸収補正, 収集角度の問題など未だに未解決の問題も多く残されている。我々は原発性肺高血圧症, 僧帽弁疾患などの右室負荷疾患における右室壁への<sup>201</sup>Tlの集積と, 同時期に施行された心カテーテル検査での右室収縮期圧, 平均肺動脈圧との相関をplanar像およびSPECT像において比較検討した。右室壁への集積は, 再構成面上に右室自由壁及び心室中隔, 左室自由壁との集積を比較した。またSPECT像より再度, LAOのplanar像に相当する再構成を行い, planar像でのROIのカウントと比較し, 両者での定量性の比較を行った。

**311** Tl-201 SPECTによる右室壁肥大の評価

小出治敏, 米倉義晴(京大 放核)  
鳥塚莞爾(福井医大), 山岡新八(京大 胸部研)

Tl-201 SPECTは, 虚血性心疾患の診断に極めて有用な検査である事は, 既に確立されているが, 慢性肺疾患における肺性心の診断にも適用できるという報告も最近多くなっている。我々は, 右心カテーテルを施行した慢性肺疾患患者にTl-201 SPECTを行ない, short-axis像で, 右室壁と左室壁のTl-201の集積のもっとも多い部分の単位マトリックス当たりのカウントの比を右室肥大の指標として, 右心カテーテルの結果と比較した。その結果, 右室壁肥大と右室内圧とよく相関し, Tl-201 SPECTで右室肥大の評価ができる事を確認できた。また, Kr-81mを用いて計測した右心室駆出率(RVEF)の低下との相関もみられた。一方, 血液ガスとははっきりした相関がみられず, 右室肥大に直接関与しないと考えられた。